

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月10日現在

機関番号：53101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22720231

研究課題名（和文） 異文化理解の視点による高等学校英語教科書の批判的分析

研究課題名（英文） Analyzing texts in a high school textbook critically from the perspective of cultural understanding

研究代表者

田中 真由美（TANAKA MAYUMI）

長岡工業高等専門学校・一般教育科・准教授

研究者番号：50469582

研究成果の概要（和文）：日本の高等学校で使用されている英語検定教科書の文化に関するテキストの批判的談話分析と分析結果に基づくクリティカル・リーディングの発問や活動に関するアクション・リサーチを行った。また、授業における教師のテキストの使用方法や生徒のテキストの反応に関する調査も行った。これらの結果を基に、英語教育において教師や生徒が多面的に自文化や異文化理解を行うクリティカル・リーディングの指導法開発のための指針を示した。

研究成果の概要（英文）：In this study cultural texts in a high school textbook used in Japan were analyzed critically using Critical Discourse Analysis. Questions and activities for critical reading were developed based on the results of the analyses and provided to students in the process of action research. Also investigated were the ways in which teachers dealt with culture in English textbooks and students read them. The findings show practical implications for developing a pedagogy for critical reading.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：外国語教育

科研費の分科・細目：異文化コミュニケーション、異文化理解

キーワード：英語教育、教科書研究、異文化理解、批判的談話分析、クリティカル・リーディング

1. 研究開始当初の背景

高等学校新学習指導要領で示されているように、英語教育の目標は、「英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育

成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」ことである。言語や文化に対する理解を深めるためには、多様な文化の知識や物の見方が必要となる。しかし、日本の英

語教育は、日本の文化と英語を第一言語とする国々の文化に注目し、生徒の日本人としてのアイデンティティを高めようとする一方で、とりわけアメリカを「国際化」のモデルとしていると指摘されている (Kubota 2002)。英語が少数の母語話者に帰属するものではないことは、1990年代以来、英語帝国主義批判として Phillipson (1992) や Pennycook (1994)、Canagarajah (1999) によって主張されてきた。しかし、英語は今日グローバルな言語として使用されているものの、それが英語教育において文化的な偏りと組み合わせられることによって、異文化間コミュニケーションが、日本と英語母国語話者との間のものであるという意識を学習者に植え付ける危険性がある。学校教育で使用される英語教科書は文化に関する有用な教材となるのだが、世界中の文化を全て一冊の本の中で扱うことは現実には不可能である。教科書に掲載できる情報量は限られているため、いかなる文化に関する情報においても、批判的な見方ができ、自らの考え方や一般的な考え方に潜む偏見に気づいた上で自文化や異文化を評価できるようになることが重要となる。

2. 研究の目的

本研究の目的は日本の高等学校で使用されている英語検定教科書の文化に関する教材を分析し、日本の英語教育における異文化理解の指導法や教材を開発するための方向性を導き出すことである。教材の分析には、これまで教科書分析に応用されることがなかった批判的談話分析 (Critical Discourse Analysis) を用いる。更に、検定教科書を用いた教師の文化の教え方と学習者の文化理解に関して質的な調査を行うことでその特徴を明らかにする。

3. 研究の方法

- (1) 文献研究: 英語教科書分析と異文化理解に関する文献研究を行うことにより、英語教育における異文化理解と教材の関連性及び、問題点を明らかにする。
- (2) 授業観察・アンケート調査・事後インタビュー: 実際に高等学校の英語教員がどのように文化を授業で扱い生徒が理解しているかを調査するために、授業観察と生徒へのアンケート調査を行う。その後、授業者にインタビューを行い、指導の意図や普段の授業に関して質問をする。この調査により、具体的な授業方法や生徒の反応などを明らかにする。
- (3) 教科書分析: 平成 22 年度に使用される高

等学校英語検定教科書内のリーディング教材に内包される国や文化に対する特定の視点を明らかにするために、テキストを批判的談話分析を用いて分析する。批判的談話分析には様々なアプローチがあるが、本研究では、Michael Halliday の選択体系機能言語学を援用した Norman Fairclough のアプローチと、Catherin Wallace の提案するクリティカル・リーディングの枠組みを採用する。これにより、教科書で使用されている語彙・文法資源の機能からテキストに潜むイデオロギーを明らかにし、教科書が生徒に与える影響を考察する際の資料とする。

- (4) アクション・リサーチ: 上記(3)のテキスト分析を基に、分析に使用した教材を用いて、研究代表者が実際にリーディングの指導を行い、批判的に文化に関するテキストを読むための指導方法を探究する。教師のティーチング・ジャーナルや授業内の教師と生徒との対話、発問に対する生徒の答えなどのパフォーマンスを分析に用いる。また、授業を他教育機関の教員に公開し、フィードバックを得る機会とする。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

- ① 文献研究: 批判的談話分析とは社会と言語の関係に関心のある研究者たちによって、その関係を記述、解釈、説明するのに役立つために使用される談話分析の理論及び方法論である。批判的談話分析の研究方法は他の談話分析と異なり、談話を記述、解釈するだけでなく、談話がなぜ、そしてどのように機能するのかについて説明を与える (Rogers 2004)。また、批判的談話分析にはいくつかの異なるアプローチがあり、一つの理論や方法論があるわけではないが、共通する CDA の目標は、社会問題、とりわけ不平等な力関係に焦点を当て、社会変革をもたらすことである (野呂, 2001)。弱者の側に立っているという点で、分析者の立場は初めから偏りがあると言える。

異文化間コミュニケーション能力は英語教育の一部である。異文化間コミュニケーションを行うためには、それに必要な能力を身につける必要がある。Byram (1997) はその能力を Intercultural Competence / Intercultural Communicative Competence とし、それらを構成する能力の一つとして、批判的文化意識 (critical cultural awareness) を挙げている。これは文化の

評価と異なるイデオロギーの対立に対する意識的態度である。このような意識を高めることで、文化に対する物の見方が単一的になることを防ぐことが可能と考えられている。しかし、日本や日本の英語教育において、異文化間の交流の機会は限られている。異文化を授業で扱うにしても、限られた授業時数の中ではある特定の文化の情報を提供するに留まってしまう。そこで、日本の高等学校英語教育でリーディング教材を使用した授業が広く行われていることから、リーディング教材を用いて文化に対する批判的意識を高めることが一つの方法として考えられる。

リーディング教材を用いてそのような意識を高める方法として、クリティカル・リーディングを本研究では提案する。Wallace (2003)は、読む行為を単なるスキルとしてではなく、社会的、批判的、解釈的なプロセスと捉え、Halliday (1994)の機能文法に基づいたCDAのアプローチによって、EFLの大学生にクリティカル・リーディングの授業を実践した。CDAに基づいたクリティカル・リーディングは、日本の高等学校英語教育においても取り入れることが可能であると考えられる。語彙や文構造に着目したHallidayの機能文法による分析は、英文法の明示的知識を学ぶ傾向にある日本のようなEFL環境では取り入れやすいのではないかと考えられるからである。また文化に対する批判的意識に関しては、高等学校で使用される英語検定教科書では様々な文化が取り扱われているため、文化に関するテキストを内容理解的に読むだけでなく、批判的に読むことで、複数の文化に対する視点を持つことが可能になると期待できる。

- ②授業観察・アンケート調査・事後インタビュー：文化が英語の授業でどのように扱われているか調査するために、3名の高校英語科教員の授業観察を行い、観察を基に行ったインタビューのデータを分析した。インタビューの補足データとして、生徒に対して授業に関するアンケート調査も行った。3名の教員のインタビューデータに共通するテーマの分析を行った結果、英語の授業で文化を教える際、教科書や教員自身の知識や経験を情報源とする一方で、生徒が異文化や自文化に対してより広範な文化的知識や視野が得られるよう、ALTを含む他の英語教員や他教科の教員の知識や考え方、インターネットなどの教科書以外の資料を情報源として利用していることがわかっ

た。

- ③教科書分析：高校英語検定教科書のテキストに内包される国や文化に対する特定の視点を明らかにするため、テキストの批判的談話分析を行った。分析したテキストは日本の漫画文化と世界とのつながりに関するものである。分析の結果、日本人の視点による記述、読者の日本の文化に対する誇りを喚起するような表現の使用、取り扱われている外国がアメリカに限定されていることなどが明らかとなった。

また、日本における食品開発に関するテキストの分析も行ったところ、テキストが主に日本の読者を対象としたものであり、世界や宇宙にまで日本の食文化が広がっていることを描写しながら、読者の日本文化への誇りを高めようとしているという記述が見られた。

- ④アクション・リサーチ：上記③で分析に使用した日本の漫画に関するテキストを初めて読んだ際の読者の反応を調査するため、同テキストを読んだ生徒に自由記述式のアンケート調査も行った。その結果、回答した生徒全員が、テキストを読んだことで日本の漫画文化に対して肯定的な意見を持ったり、更に肯定的な気持ちを強めたりしたことがわかった。アンケート調査の後、授業で批判的にテキストを読むためのディスカッション活動を行い、再度アンケート調査を行ったところ、日本の漫画の肯定的な面のみが記述されている点や取り扱われている外国がアメリカのみであること、学校教科書として否定的な面も盛り込みながら中立的に記述するべきであるとの回答が得られた。

上記③の二つ目の分析に用いた日本の食文化に関するテキストを使用して、生徒がどのように批判的にテキストを読むかを調べるために、教師が授業中に与えた発問に対する生徒の回答や、生徒のテキストの批判的解釈に基づいたプレゼンテーションの内容を分析した。その結果、言語分析とテキストで扱われている情報の信頼性を批判するクリティカル・シンキングスキルの両方を使用しながら、テキストを批判的に解釈したことがわかった。このプレゼンテーションの授業を他の教育機関の英語教員に公開したところ、研究協議会で、批判的に読むことについては一定の評価を得たが、プレゼン時の英語力が乏しいと指摘された。生徒の思考力と英語力の差を埋めるために、英語力を段階的に伸ばしながら批判的な思考力も向上させるための活動を開発し、頻繁に実施することが必要と考えられる。

また、教師のティーチング・ジャーナルから、批判的談話分析には専門知識が必要

であり、また、分析自体にかなり多くの時間が費やされていることが明らかになった。そこで、テキスト分析のための知識や時間が限られている教員にとって実際に利用可能なクリティカル・リーディングのための発問のチェックリストや発問例、生徒の答えの例などをパッケージ化したツールキットの作成の準備を開始した。発問の枠組みが構築されることにより、今後、クリティカル・リーディングのための教授法や教材の開発が進むと考えられる。

(2) 成果の国内外における位置づけとインパクト

高校レベルの英語の授業で、異文化理解の視点に基づいたクリティカル・リーディングの指導に関する実践的な研究は、国内においては、本研究開始当初、ほとんど発表されていなかったが、本研究期間に国内の学会で口頭発表を行い、参加者と研究成果を共有した。本研究におけるアクション・リサーチに関する発表で、多面的に文化を理解するために他の生徒の意見を聞くことも大切であることを述べた際、クラス全体やグループでのディスカッションなど、人前で生徒が意見を述べる活動は日本では成立しないのではないかとの質問があった。これに対しては、まずはペア・ワークから始め、グループ、クラス全体へと規模を広げたり、話し合いの際のルールを決めて行うことによって、互いの意見を尊重しつつ自然と意見交換ができるようになるとの意見を述べた。西洋的思考法に基づくとされるクリティカル・リーディングやその活動を日本の英語教育環境に合うよう修正して行った点において、西洋圏での研究成果とは異なる結果を出せたと考えられる。

(3) 今後の展望

本研究ではクリティカル・リーディングに関して異文化理解に焦点を当てたが、今後は、科学的なテキストなど様々な英語リーディング教材を批判的に読ませるための教授法を開発していきたい。具体的にどのような観点でテキストを読めたら「批判的に」読めたと判断できるのかについては、まだ明確な基準やチェック項目が提示されていないため、批判的に読む活動と言っても、教師はどのような発問や活動を与えたら良いのか、そして、生徒はどのような点に着目してテキストを読んだら良いのかが不明確である。したがって、今後は教授法開発の一部として、研究協力者の実践を蓄積し、クリティカル・リーディングの定義や教師の発問や活動作りのためのチェックリスト、そして実際の発問や活動、生徒の解答の例を電子データとしてパッケージ化し、日本

国内の英語教員に普及させたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① Richard Smith, John Gray, Diana Freeman, Alice Wanjira Kiai, Mayumi Tanaka, Dario Banegas, Symposium on ELT Coursebooks: Past, Present and Possible, IATEFL 2012 Glasgow Conference Selections, 査読有, 2013, pp. 74-77
- ② Mayumi Tanaka, Critical Discourse Analysis of a Government Approved Textbook: Aiming for its Application to English Language Teaching, Proceedings of JASFL, 査読無, Vol.4, 2010, pp. 13-28

〔学会発表〕(計5件)

- ① Mayumi Tanaka, Dealing with Constructed Cultural 'Reality' in Japanese High School Coursebooks, International Association of Teachers of English as a Foreign Language Conference Glasgow 2012, 2012年3月21日, The Scottish Exhibition & Conference Centre (Glasgow, UK)
- ② Mayumi Tanaka, Japanese Students' Responses to Critical Reading of Culture, 1st Interdisciplinary Linguistics Conference, 2011年10月14日, Queen's University (Belfast, UK)
- ③ Mayumi Tanaka, Developing a Pedagogy for Critical Teaching of Culture, 14th Warwick International Postgraduate Conference in Applied Linguistics, 2011年6月29日, The University of Warwick (Coventry, UK)
- ④ Mayumi Tanaka, Using CDA to Read Cultural Representations, 全国語学教育学会(JALT), 2010年11月20日, 愛知県産業労働センター
- ⑤ Mayumi Tanaka, Comic Book Culture in the Japanese and Global Contexts: Critical Discourse Analysis for its Application to English Language Teaching, The British Association for Applied Linguistics, 2010年9月11日, The University of Aberdeen (Aberdeen, UK)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 真由美 (TANAKA MAYUMI)
長岡工業高等専門学校・一般教育科・准教授
研究者番号: 50469582